

春田産業、日本庄延工業、パナソニック

# アルミ水平リサイクル開始

# 物流効率・環境負荷低減に寄与

産業（本社・大阪市東成区、社長・北村裕一氏）はこのほど、日本庄延工業とパナソニックと共に、アルミスクランプを対象とした水平リサイクルの共同事業を開始した。春田産業は製品納入とスクランプ回収を担い、年間回収量は40トンを見込む。

外部業者へ売却していくスクラップを同一製品群の原料として再利用する循環型の取り組みだ。春田産業が日本庄延工業製の純アルミ系コイル材を、パナソニックの照明器具製造拠点へ納入する際、ソニックで発生するアルミスクラップを自社加工工程で発生するア

トラックで回収。日本庄延工業へと運ぶ。これによりCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減、回収輸送の省力化・コスト削減につなげる。

2025年2月から試験的に回収を開始し、スクラップリサイクルの運用スキームを構築。現場では異種金属の混入を防ぐための分

別ルールを設け、安定回収に向けた管理に取り組んだ。また、春田産業は自社倉庫や自動ラック設備を活用できる体制を整え、日本圧延工業もスクラップ原料の活用に注力。今回の共同事業開始に至った。

「協業による水平リサイクルは先進的な取り組みだ。当社が持つ原料取り扱いのノウハウや設備、輸送力を生かし、互いに協力することです」と、

「形にござた」としていきたいと語る  
「製品とスクラップの両方を扱えることが我々流通問屋の強み。実績を積み、今後は他拠点での回収も視野に入  
今回の取り組みは、パナソニックグループが推進する調達先連携型の「温室効果ガス削減」「循環型ものづくり

り」などの施策が「E  
COVC」の一環とし  
て評価され、春田産業  
と日本庄延工業は25年  
度ECOV C奨励賞を  
受賞している。

